

ADVANCED INTERNET TOUR

in Hiroshima 2007 開催迫る!

CSI副理事長・運営委員長 相原 玲二
(広島大学情報メディア教育研究センター)

最先端のインターネット技術に関する国際会議、国内会議、セミナーなど8つのイベントが、2007年1月15日(月)～19日(金)、広島国際会議場(広島市中区)において集中的に開催されます。そのうちの代表的なイベントをご紹介します。SAINT2007 (Symposium on Applications and the Internet, 15～19日)は、社団法人情報処理学会とIEEE Computer Societyが毎年世界各地で開催するインターネット技術に関する国際会議で、3年ぶりに日本で開催されることになりました。独立行政法人情報通信研究機構が主催するJGN2シンポジウム(17～19日)では、研究開発用テストベッドJGN2に関連する様々な講演や研究開発内容のデモンストレーション展示などが予定されています。CSI主催の「ネットワークマスター虎の穴」市民公開講座(17日)、広島地域IPv6推進委員会主催の「技術者のためのIPv6セミナー」(19日)なども予定されています。

一連の会議やセミナーなどへの参加を促し、イベント全体を見通しよくするため、1週間にわたる関連イベント全体にAdvanced Internet Tour in Hiroshima 2007という名称を付与して広報に努めることにしました。日本国内のみならず世界各地からのお客様をお招きし、最先端インターネット技術に触れる1週間にして頂く願いを込めてTourという名称を付けました。その広報用WebページのためにWebサーバを提供するなど、CSIもイベント開催の一翼を担っています。国際会議以外の会議やセミナーは、参加無料(ただし、参加登録は必要)となっています。これだけのインターネット関連イベントが広島で集中開催される希少な機会を活用し、できるだけ多くの方々にご参加頂きたいと願っています。詳細は右のURLを参照して下さい。



<http://www.csi.ad.jp/ait-hiroshima2007/>

CSI役員・運営委員

理事長 椿 康和
副理事長 相原 玲二、染岡 慎一
理事 小関 祐二、西村 浩二、前田 香織、前田 真理、吉田 典可
監事 大場 充、片山 博昭
運営委員 相原 玲二(委員長)、前田 香織(副委員長)、今井 一雅、上野 優香、田島 浩一、
玉井 基宏、西村 浩二、野村 怜子、匹田 篤、前田 真理、松川 正義



(2006年6月5日現在)

インターネットの本質への回帰を目指して

東京大学 大学院 情報理工学系研究科
教授 江崎 浩

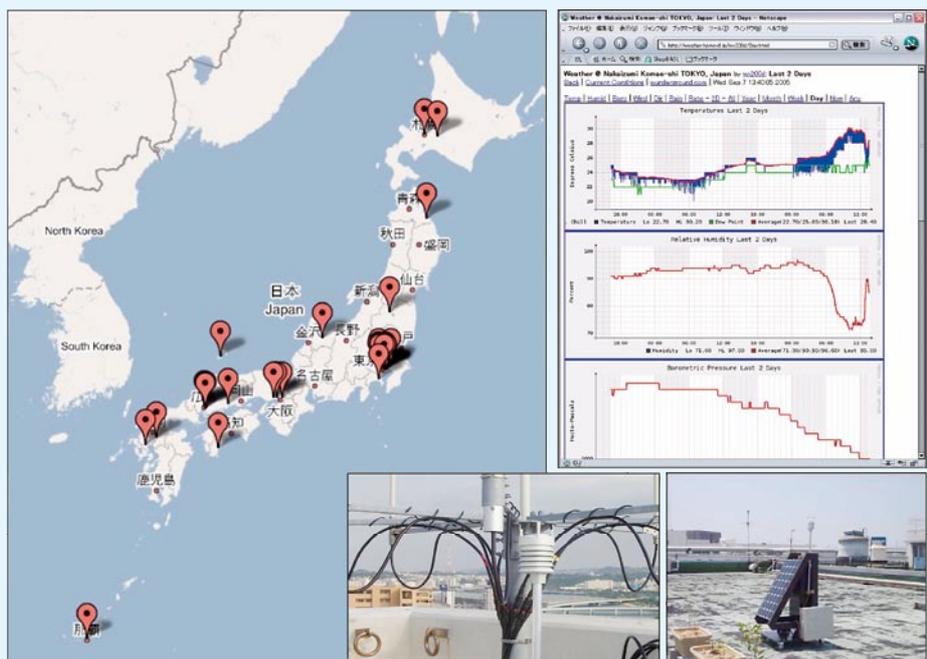


Live E! プロジェクト (<http://www.live-e.org/>) は、地球環境に関して組織ならびに個人が生成するデジタル環境情報を、自由に、かつ自律的に流通・共有ならびに加工可能な、デジタル情報に関する「コモンズ」の環境を作り出すことを、その本質的な目標としています。 デジタル情報は、このような情報基盤の形成により、利用者と利用法に依存せず、再利用と流通が促進されることとなります。このような考え方は、インターネットの父とも呼ばれている CNRI社長のRobert Kahn博士との会話の中で、「インターネットは論理的なアーキテクチャであり。デジタル情報の自律的な流通と選択肢 (Alternatives) の提供がインターネットの本質である」とのコメントをいただき、意を強くさせていただきました。 デジタル百葉箱は、情報の生成が種々の組織と個人から行われ、これがいろいろな形 (公共サービス、教育、ビジネスなど) で利用可能となる、象徴的な活動であるとの認識を持って、多くの方々からのご理解とご協力のもと、推進させていただいております。特に、中国地区の皆様方の精力的なご協力には、深い感謝と尊敬の意を表させていただければと存じます。

さて、最近、キャリアのサービスを IP技術を用いて統合化するNGN (Next Generation Network) の議論が精力的に進められています。 All-IPを特徴とするNGN は、インターネットアーキテクチャから観た場合に、どのようなものなのか? 我々インターネットの創成に関わったもののNGNに対する責任はどのようなものなのか? 筆者は、我々は、インターネットの"心"、すなわち、インターネットの論理的なアーキテクチャとその実装 に立ち返り、NGNへの考察を行う必要があるのではないかと考えます。筆者にとって、NGN では、IPは単なる実装技術であり、アーキテクチャは、必ずしも"インターネット"の構造と運用とは同一のものとはならない可能性を持っているように観えています。

「デジタル情報が、グローバルレベルで、自由にかつ自律的に流通し、利用者と利用法に依存せず、かつ、デジタル情報の伝達と流通に関して選択肢を提供可能にすること」が、インターネットの本質であり、インターネットが成功した本質的な理由であることを、再認識する必要があるのではないのでしょうか。

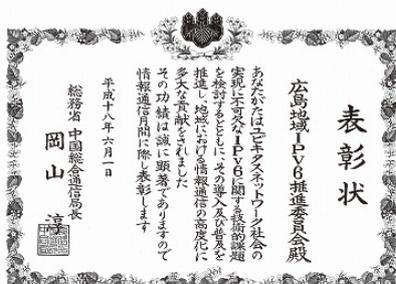
筆者は、Live E! プロジェクトの活動が、これを証明する、プロジェクトとなることを願い、ますますの皆様のご協力とご支援、ならびに、ご指導をお願いするしだいでございます。



Live E! プロジェクト (<http://www.live-e.org/>)

広島地域IPv6推進委員会、 「平成18年度 電波の日・情報通信月間記念式典」にて表彰

CSI理事・広島地域IPv6推進委員会委員長 前田香織 (広島市立大学)



平成18年6月1日に広島市内のホテルにて、「電波の日・情報通信月間記念式典」が開催され(中国総合通信局と中国情報通信協力会との共催)、広島地域IPv6推進委員会が地域における情報通信の高度化に対する貢献に対して表彰されました。本委員会は前号のFrom CSI (13号)でご紹介したばかりの若い団体ですが、私たちの活動に賛同して頂いた多くの方々のご尽力の結果だと考えています。この度の表彰を励みとし、今後も一層IPv6推進のための活動を進めていきたいと思っております。

今年度は広報活動を積極的に行い、ホームページも一新しました。来年(2007年)1月には技術セミナーも開催予定です。また、院内学級をIPv6ネットワークに接続し、従来にない取り組みも行っています。詳細は、次のURLの新しくなったホームページをご覧ください。<http://www.supercsi.jp/ipv6-deploy/>

今後も本委員会に対するみなさまのご支援をお願いします。

会員紹介シリーズ No.13

ネットワンシステムズ株式会社

(<http://www.netone.co.jp/>)



ネットワンシステムズが誕生したのは1988年です。現在のネットワークの基盤技術になったIP(インターネットプロトコル)にいち早く注目し、後に業界標準となったルータなどの各種ネットワーク製品を発掘して、日本市場に導入してまいりました。設立以来、通信事業者、大手企業、官公庁・自治体、大学・研究所などの大規模なネットワークを構築し、導入、運用してまいりました。

ネットワンでは市場ニーズ別に「ネットワーク」「プラットフォーム」「セキュリティ」「IPコミュニケーション」「サービス」の5つのソリューション領域を設定しています。お客様ごとの要望や環境に合わせて各領域の要素を柔軟に組み合わせ、あらゆるニーズにワンストップで対応いたします。ネットワークの性能や信頼性はもちろんのこと、導入後の運用や将来の拡張、そして投資効果をふまえた、付加価値の高いソリューションを提供いたします。

中国・四国地域においては、2000年5月の広島事業所の開設を皮切りに、2002年5月に高松事業所を開設。2005年10月には岡山事業所、松山事業所を同時開設し、地域密着4拠点体制で活動しています。中国・四国地域のお客様に満足していただけるよう、先日も週末返上で社員研修をこの4拠点合同で開催いたしました。この原稿に当日の写真を掲載する予定でしたが、あまりにハードな研修で写真もとれなかったため、広島事業所のスタッフを今回は披露させていただきます。ネットワンはこれからも新しい技術にチャレンジし続け、安全で使いやすい最先端ネットワークを提供してまいります。すべてはお客様の大きな満足のために。(文責:赤座正樹)

CSIネットワークマスター虎の穴セミナー報告

セミナー実行委員会委員長 松川正義 (株式会社エヌティティ西日本-中国)

地域におけるインターネット技術に関する人材育成や地域活性化を目的として、昨年7月より始まった技術セミナー「CSIネットワークマスター虎の穴」ですが、無事2年目を迎えることができました。これもセミナーに参加いただいている方々、また広報等でご協力いただいている関係各所の皆様のおかげです。感謝いたします。始めた当初は、参加者ははたして集まるのだろうかとか、不安な点も多々ありましたが、毎回参加いただいている方も増えており、少しずつではありますが定着化しはじめているのではないかと思います。セミナーは技術を学びたいと考えている人であれば、年齢職業等を問わず誰でもご参加いただけます。<http://www.csi.ad.jp/seminar/>をご覧ください、今までご参加いただけなかった方も、ぜひ一度足を運んでいただければと思います。

Open Meeting 報告 CSI運営委員・理事 前田真理 (広島市立長束小学校)

去る9月9日(土)、周防大島サンシャインサザンセットにおいて「CSIオープンミーティング」(参加者36名)が開催されました。椿理事長は冒頭に、「インターネットをめぐる社会状況は、CSI設立時から大きく変化しました。それに対応してCSIの組織としての目的も、質的転換の時期に来ている。この会を会員のみなさんから広く意見を求める場として、CSIの今後の活動を真摯に論議したい。」と、この会の趣旨説明を行いました。

続いて会の前半では、CSIとしての今後を語り合うための予備知識として、相原運営委員長からCSIのこれまでのあゆみを、染岡事務局長からはCSIの財政の現状が説明されました。次に現在展開中の事業として、アジア地域での若い世代との空間共有・体験共有をする「APNG調査委員会(CSIing)」と、若手技術者育成目的の有料セミナー「CSIネットワークセミナー虎の穴」を紹介しました。

後半の「コメントタイム」では、以上の説明を踏まえてCSIの活動に期待する意見とともに、会員ひとりひとりがまずCSIの趣旨にかなう活動を自ら考え、主体的に取り組むことも大事だという意見も出されました。とくに、CSIがこれまでに「インフラ整備」「人材育成」「普及啓発活動」を有機的に関連させながら展開する事業に取り組んできたことを評価して、今後の活動でもその経験からのノウハウを生かすべきという意見が多数ありました。

御参加のみなさんの意見は、来年度以降の活動に参考にさせていただきます。ありがとうございました。

なお、会員のみなさんの御意見は、今後も随時受けつけますので、よろしくお願ひします。

CSI会員紹介 (2006年12月7日現在)

団体正会員 (18組織)*50音順 <http://www.csi.ad.jp/sec/members.html#dantai>

学校法人 広島国際学院、学校法人 高知工科大学、学校法人 福山大学、株式会社 ネットスプリング、株式会社 広島市産業情報サービス、株式会社 ラディックス、呉大学、高知工業高等専門学校、高知女子大学、財団法人放射線影響研究所、ネットワンシステムズ株式会社、比治山大学、広島商船高等専門学校(マルチメディア時代における教育研究会)、広島市立大学、広島大学、福山平成大学、安田女子大学、弓削商船高等専門学校

賛助会員 (12組織)*50音順 <http://www.csi.ad.jp/sec/members.html#sanjo>

株式会社イーサイド、株式会社内田洋行、株式会社エヌティティ西日本-中国、株式会社エネルギー・コミュニケーションズ、株式会社ジャストシステム、日立製作所 中国支社、株式会社ミウラ、総務省 中国総合通信局、中国電力株式会社、西日本電信電話株式会社 広島支店、日商エレクトロニクス株式会社 中国支店、日本電子計算株式会社

個人正会員 (59名) <http://www.csi.ad.jp/sec/members.html#kojin>

編集後記

IPv6ネットワークを活用した遠隔交流授業により、院内学級の子も達と、院内学級の本校にあたる学校の子も達が出会いました。同じ場所になくても、一緒に授業を受け、互いの話を聞いたり、思いを伝えたり。これからも、人との出会い、人とのつながりを大切にしたCSIであり続けたいと思います。(YU) 2006年12月7日 広報部会・広報誌編集担当 今井一雅、上野優香、野村怜子

